

2010.5.6 「普天間の公約違反はもはや犯罪だ。」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今年のゴールデン・ウィークの大きな出来事は、鳩山総理が沖縄を訪問されたことです。鳩山内閣の大きな目玉であった普天間基地の国外、最低でも県外への移設が、全くのデタラメであったことが、今更ながら国民の前に明らかになりました。また、言うに事欠いて「これは公約ではない。私個人の意見だ」と、鳩山総理が発言しました。総理大臣としての資質以前に、政権担当能力自体が無いと言わざるを得ません。

問題なのは民主党政権です。このような事態になることは、端から見えていました。鳩山総理は、「安全保障問題について、勉強すればする程、抑止力としての海兵隊の存在意義・重要性が分かった」と発言しています。鳩山総理は、一体いつから勉強を始めたのでしょうか。民主党が政権を取ってから8ヶ月が経ちますが、この問題については、政権を取る以前から分かっているなければなりません。仮に、野党であったから、そのことをよく考えていなかったということにしても、政権を取った後にでも勉強すれば、三日で理解できる話です。ところが、当初、鳩山総理自身が年内に解決すると言った問題を、わざと5月まで先送りしています。その間に、名護市の市長選挙では、基地反対派の市長が誕生しました。それを助長するような発言を繰り返し、沖縄県民にない夢を見せ、そして最後に抑止力を知らなかったという言葉が鳩山総理の口から出る。これでは、沖縄県民が怒るのは当然です。さらに、鳩山総理がやっている行為は、日本国民に対する、詐欺というよりも犯罪行為です。国民をないがしろにし、国民の安全を極めて危険な状態に追いやる鳩山総理は、犯罪者であると言わざるを得ません。直ちに総理大臣を辞職すべきです。

同時に、民主党の公党としての責任も免れません。小沢・鳩山両氏の政治資金の問題もさることながら、政権交代を叫んで選挙をしてきた彼らは、マニフェストを有権者に「契約だ、約束だ」と発言してきました。しかし、そのマニフェストさえ、まともに実現できたものがないばかりか、実現できないことについての説明も一切していないわけです。自分達が思いつきで行っていることをいまだに継続しようとしている。思い付きの極めつけである普天間問題を、「今まで勉強してこなかったからごめんなさい」で済まされては堪ったものではありません。

私達は、直ちに民主党内閣の解散を要求しなければならないと思っています。同時に、民主党政権がいかにデタラメであるか、このような方々に政治を執らせると日本はどうなるのかを、我々はしっかりと確認し、国民にも見せつけて行かなければならないと思います。そして、二度とこのような方々が政治を執られることがないように、自民党自身ももう一度、過去の政策の総点検をしなければなりません。普天間問題で言えば、一番大切な日米同盟もさることながら、「自分の国は自分で守る」ことができないという、戦後政治の矛盾点を、鳩山民主党が表面上突き、それが一時的には国民には受けました。しかし、一番の矛盾点である、「自分で自分の国を守る」ことを端から考えていない人達に政治は任せられないのです。要は、子供の国から大人の国、まともな国として、もう一度、民主党の政権による国難を乗り越えていくことが自民党に一番必要なことだと思います。

これからも皆様方のご支持をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。